



11月21日(火)～23日(木)

蘭州市代表団が秋田市を訪問しました

昨年は蘭州市と友好都市提携35周年を迎えたことから、胥波(シュポー)常務副市長をはじめとする代表団6名が本市を訪問しました。

代表団は穂積市長を表敬訪問し、今後も両市の交流を促進していくことを確認しました。

また、代表団は10月から2か月間、研修員として本市に滞在している医師および教員の研修先を視察したほか、秋田のまちづくりに関する計画などについて本市職員から説明を受けました。

胥常務副市長は、「これまで秋田市で研修した医師や教員は、蘭州市で活躍している。今後も実りある友好関係を続けていきたい。」と話していました。



市長表敬時の様子



市役所での記念撮影(前列左から二番目が胥常務副市長)



研修員(教員)の研修先である秋田公立美術大学附属高等学院を視察



ゴミ処理のプロセスを見学するため、総合環境センターを視察



秋田オーパのリファイニングについての説明を聞く様子

蘭州市研修員

10月12日(木)～12月10日(日)

秋田市で医療と教育分野の研修を行いました

蘭州市の教員、趙 新佐さん、董 曉霞さん（ともに英語）、医師の楊 斌さん（外科）、陳 新悦さん（麻酔科）の4名が、約2か月間、秋田市で研修を行いました。

医師2名は市立秋田総合病院で、日本の医療体制や病院の管理体制、先進的な医療技術や医療機器などについて知識を深めました。また、教員2名は御所野学院中学校・高等学校、秋田公立美術大学附属高等学院、秋田南高等学校で、英語の授業を担当したほか、漢文や地理などの授業にも参加し、英語で中国に関係する分野を紹介しました。



修了式



市役所前で集合写真



漢文を英語で解説



お世話になった市立病院の先生方と

楊 斌さん（蘭州市肺科医院、外科医師）



研修先の診療科では毎週英語の文献を読んでおり、最新の医療事情の変化や技術の革新を学ぶことで、自分の知識を更新していました。また、術後には難病の病例に関する病理討論を行い、その病気を分析することで、今後の治療に役立てています。帰国後、これらの制度を取り入れ、実践していきたいです。

陳 新悦さん（蘭州市婦幼保健院、麻酔科医師）



研修先では各診療科の間でよく協力し合い、医師と看護師で一つ一つの仕事を細かく役割分担し、患者のデータを何度も確認するなど、安全性を確保していました。帰国後、手術前の再確認制度の徹底や、臨床部門以外の管理の専門化を提案するなど、医療の安全と仕事の効率アップに努めたいと思います。

趙 新佐さん（蘭州市第四十九中学、英語教員）



3つの学校で研修しましたが、日々の教育の中で、それぞれ独自のものを見出し、発展させ、優れた学校になっていました。帰国後、チームティーチングや教材の作成、面談のし方、生徒の学習課題をどう解決するかなど、秋田市の先生たちがどう実践しているかを周りの教員に伝えていきたいです。

董 曉霞さん（蘭州市外国語学校、英語教員）



秋田市の学校では大学の講師や社会人の専門家などを招いて授業をしたり、文化の伝承、世界とのつながり、環境保護や道徳を重視した教育をしていることを知りました。帰国後、生徒の生活能力の養成に力を入れるほか、指導内容を充実させ、生徒の能力を引き出す授業をしていきたいです。

「英語で救命講習」を開催しました

9月3日(日)

秋田市消防本部は「救急フォーラム2017 チャレンジ!キッズ救急ラリー」のプログラムの一環として、「英語で救命講習」を開催し、6歳から12歳までの子どもたち15名が、通訳ボランティアから英語を教えてもらいながら、心肺蘇生法を練習しました。

この講習会は、2020年の東京オリンピックなどの大きなイベントを控えて本市にも多くの外国人が訪れることが見込まれる中、急な事故などに遭った外国人に英語で対応できる市民がいる「真の救命都市」を目指すためには、子どものころから応急手当と英語に親しみをもちてもらうことが必要と考え、企画しました。



英語のフレーズを繰り返している子どもたちの様子



秋田市消防本部城東消防署救急担当 藤井 佳孝 消防士長(救急救命士)

東京オリンピック開催を前に社会的機運が盛り上がる中、秋田市消防本部では訪日外国人や外国人住民にも安心安全な街でありたいという思いから、英語で救命講習を試みました。国際教養大学の学生が通訳を担当、傷病者への簡単な声掛けなどの初期対応を英語で行い、胸骨圧迫するときの子供たちの「ワン! ツー! スリー! フォー!」という力強い声が講習会を盛り上げました。今後も心肺蘇生法を通じて英語に興味をもちてもらい、市民の安心安全な暮らしに貢献していきたいと思えます。



通訳ボランティア 鈴木 薫さん(国際教養大学大学院2年生)

子供たちと一緒に「もし目の前で外国から来た人が倒れていたら…?」という設定で、緊急時に使う英語のフレーズや心肺蘇生法などを勉強しました。子供たちの目つきは真剣そのもので、親御さんと一緒に英語のフレーズを繰り返したり、人形を使って心臓マッサージの練習をしたりしていました。当日は海外からのクルーズ船が秋田に寄港しており、子供たちが一生懸命練習する姿を見守る外国人観光客の姿もありました。子供たちが世界に目を向けるきっかけとなるような活動に参加でき、非常によかったです。

あきた国際フェスティバル2017に参加しました

10月1日(日)

イオンモール秋田の1階セントラルコートで開催された「あきた国際フェスティバル2017」に秋田市のブースを出展し、各友好・姉妹都市の写真パネル展示、外国人住民向け生活情報の提供などを行いました。

今年は「119番のかけ方」の外国語版リーフレットの配布や救急現場で使用している多言語音声翻訳アプリ「VoiceTra(ボイストラ)」の周知などを積極的に行いました。



11月11日(土)～12日(日)

三市連携交流提携10周年記念式典・交流会が 常陸太田市で開催されました

昨年は、常陸太田市、仙北市および秋田市による三市連携交流提携10周年を迎えたことから、常陸太田市で記念式典や交流会などが開催されました。

秋田市からは、穂積市長や小林市議会議長のほか、これまで同市と交流を続けてきた久保田城趾歴史案内ボランティアの会の皆さんなど総勢52名が出席しました。

記念式典では、三市の市長および議長による「常陸太田市・秋田市・仙北市連携交流共同宣言書」への署名が行われました。

常陸太田市で開催されたイベント「常陸秋そばフェスティバル里山フェア2017」では、三市連携交流事業の一環として、秋田市の竿燈や仙北市の飾山ばやし、常陸太田市の天神ばやしが登場しました。

常陸太田市と秋田市は、1977(昭和52)年に姉妹都市提携を行い、昨年で40周年を迎えました。

国内外6つの友好・姉妹都市の中で本市が一番最初に姉妹都市提携を行った都市であり、これまで行政だけでなく市民同士の交流も盛んに行われてきました。



三市の市長、議長による記念撮影



竿燈の披露



天神ばやしの披露

平成30年度 秋田市の主な国際交流・平和関係事業(予定)

時期	事業名等	概要
7月15・16日	ナガサキ・土崎被爆証言講話会	長崎から被爆体験者を、また、土崎から空襲体験者を招いて、自らの体験を語っていただく講話会を開催。(無料)
8月上旬	米国・キナイ半島郡ダンスチーム等受入	キナイ半島郡から音楽家およびダンスチームを受入れ、市民無料招待のコンサートやダンス交流を実施する。
8月20日～27日	ロシア・ウラジオストク市青少年バレエ交流受入	「日本におけるロシア年」の記念事業として、ウラジオストク市と秋田市のクラシックバレエを学ぶ青少年の合同公演を実施する。(無料)
8月中旬～10月中旬	中国・蘭州市研修員受入	蘭州市から研修員4名を2か月間受け入れる。
10月6日	秋田市国際フェスタ	各姉妹都市等の紹介パネルの展示、食文化・特産品等を紹介するブース、ステージイベント等を開催する。
通年	秋田市日本語教室	外国人住民対象の日本語教室を開催。(無料) 毎週木曜日、午後6時30分～8時、場所はにぎわい交流館AU。

活動に興味のある方は企画調整課国際交流担当まで

お問い合わせ

秋田市 企画調整課 国際交流担当 TEL 018-888-5464 / FAX 018-888-5463

E-mail : ro-plmn@city.akita.lg.jp

http://www.city.akita.akita.jp/city/pl/in/default.htm